

目国内岳（1. 220m）

<山スキー&スノーシュー>

日程 平成28年1月31日（日）

参加者 藤木晴夫総括リーダー

A班 渡邊、笹山、永宮、石井、若林、後藤、太田

B班 山岸、西田（芳）、澤田、西田（昌）、佐藤、安田、谷、酒井

C班 藤木（た）、近藤、鈴木、川村、及川

（6：40）伊達道の駅出発。新富～昆布道を粉雪で前方の車が見えにくい中を慎重に走る。

（8：05）蘭越セイコマで札幌組と合流
新見線10kmを15分で
（8：35）温泉着。来シーズンからこの道路が除雪されなければ冬は簡単には入山できなくなるでしょう。

（9：00）ゲート出発後に、小雪が降り出してくる。目国内岳の山様が見えない。今回は状況に合わせて3コースを用意されたが



多人数、沢コースの渡渉、天候を考えコルで判断することになる。先行者のラッセル跡を新見の沢沿いを進む。コルには最短ルートなのかもしれない。コルから山様、何も見えず気温17度。頬、指先が冷たい。すでに11時30分と時間も経過、リーダー判断で前目国内岳をめざす。

30分程で山頂到着、記念写真を手早くすませスノーシュー班先行で降りる。

今回、山スキーデビューの太田さんは心ワクワク、少々心配？

皆さんかたはまずまずの滑りでスノーシュー班と合流し昼食。スノーシュー班と別れて 疎林を

ヘアピンカーブに向い降りる。シールを付けることもなく、目的地に着く。14時頃と時間も早い。シールを付け 新見グレンデにむかうが 手前のコースを滑ることになり、滑走中の2人が 窪みに入り 立ち上がり苦勞したようでしたが 全員 車道に降りた時、待ち合わせたように スノーシュー班と合流 14：45下山

新見温泉を楽しみにしていましたが 日帰り入浴休止で 昆布町の幽泉閣で入浴して帰宅。各リーダーの皆様 冬道のドライバーさん ご苦勞様でした。



記 酒井